

居酒屋談義

第2回

正副会頭・常議員から

若手経営者35人へのメッセージ

第2回居酒屋談義を5月14日(木)、19日(火)、21日(木)に富山駅周辺の居酒屋で開催した。若手経営者35人(当所青年部員)が5人ずつ、会場となった7軒の居酒屋に分かれ、各会場に1人ずつ陣取った正副会頭・常議員と歓談した。その夜、人生経験豊富な大先輩たちは若手経営者らに対し、どのようなメッセージを送ったのだろうか。



会頭

高木 繁雄

(株)北陸銀行 特別顧問

会場

「四六八ちや
富山駅前店」

富山市桜町2丁目1-10
陽光堂ビル地下1F

「若い人たちには

自ら考えて行動に移して欲しい」

居酒屋談義は、高木会頭からの差し入れのワインで「乾杯」から始まった。最初は少し緊張気味だった参加者は、美味しいワインに舌鼓を打つにつれて次第に打ち解け、会話が加速していった。

参加者から、これからの富山の観光振興について質問があり、会頭は「北陸新幹線の開業効果もあって、金沢は観光客が増大し大変に盛り上がっている

と聞く。しかし、富山は金沢と同じ土俵で考えてはだめだ。歴史や文化の違いを踏まえて差別化を図らなければならない。県内には全国に誇れる祭りや伝統文化が数多く存在する。特に、「越中八尾おわら風の盆」をはじめ、越中の小京都・城端の春を彩る『城端曳山祭』は素晴らしい」と、県内各地の祭りの見どころや魅力を語られた。

続いて、参加者から、青年部が取り組むまちづくり事業で、地域を巻き込んださらなる盛り上げ策を相談。会頭は中心市街地などの飲食店をテーマ別にまとめ、観光客向けにPRする「まちなか発見マップ(仮称)」を提案し、「青年部が主体となってラーメンなどを実際に試食し、おすすめの飲食店を感想などと共に紹介する手作りマップの作成は、費用もあまり掛からないし、すぐに始められる。若い人が自ら考え、行動に移すことが最も大事だ」とアドバイスをされた。

最後に、会頭は就職を決めた大学時代に簿記を学んで銀行業務に役立ったエピソードを紹介し、如何



に企業経営には簿記の知識が重要であるかなど、学ぶことの大切さも説かれた。そして、目まぐるしく変化する時代にあって、放っておけば変化に対応できず、いつのまにか産業が空洞化し、衰退してしまうことが考えられるが、「地場産業の活性化やまちおこしをテーマに青年部と談義の機会を持ちたい」と話された。

時間は瞬く間に過ぎ、終了予定時刻になっても話題は尽きず、会頭は参加者と所を変えて、さらに熱い談義を交わされた。

【参加者】

ハッ橋朋和(テレ通株 専務取締役)

堀 律夫(堀石材工業株 代表取締役)

橋 泰行(アール・タチバナ株 専務取締役)

佐々木馨一(有佐々木 取締役)

松尾壮一郎(株富士総合保険サポート)



副会頭
近藤 駿明
(近藤建設(株) 代表取締役会長)

会場 「きつときつと居酒屋 癒し家」
富山市桜町2-1-18
ブレイン桜ビル3F

「仕事に関係ない繋がりを大切に」

近藤副会頭は、にこやかな表情で、「気楽にすすめましょう」と気遣われる中、始まった。

43歳で社長に就任し、以来30年務めた社長職を辞し、今年会長となられた近藤副会頭は、「人の上に立つ人が、信頼を得るには、常日頃の付き合いを大事にし、自らがすすんで様々な方との交流を深め、特に、仕事に直結しない人との繋がりを大切にして欲しい」「組織は常に新陳代謝が必要。青年部の皆さんは、これからどう生きるかが重要だ。チャンスがあったら



何にでもチャレンジして欲しい」とエールを送られた。また、2代目としての心構えを尋ねられ、「私が社長になった時は、あいつが継いだら会社が潰れる、と言われた。しかし、時代の変化を見極め、自分の思いを一所懸命伝えて、なんとか乗り切ってきた」と語られた。大先輩の人間味溢れる笑顔と話しぶりに、参加者は心地よく酔っていた。

【参加者】

- 中嶋 誠 (有)中嶋工芸社 代表取締役社長
- 長谷川英利 (有)プラス 代表取締役
- 吉本 準也 (有)吉本自動車工業 代表取締役
- 岡田 健一 (クロスロード/有)カーショップ岡田 店長
- 始良 敦司 (アイル断熱工業(株) 代表取締役専務)



副会頭
河上 弥一郎
(河上金物(株) 代表取締役社長)

会場 「ピストロ酒場 やなぎ屋」
富山市内幸町1-14

「誠意をもって接すれば道が開ける」

5月9日に西町南区再開発ビル「TOYAMAキラリ」の竣工式が行われ、河上副会頭は再開発組合の理事長として19年間、この事業に取り組んでこられた。今回の談義はこの事業の苦労話から始まり、参加者は大仕事を成し遂げた副会頭の話を引き込まれるように聞いた。



副会頭は再開発組合の理事長に就任以来、各方面と話し合いながら、ガラス美術館と図書館を中心にした構想を固め、入居する企業の募集にも奔走された。「再開発の事業は簡単ではなかった。しかし、誠意をもって接し、信頼関係を築いた人と人との繋がりによって道が開けていったように思う」との言葉に表されるように、いくつもの問題を、多くの人たちの協力によって乗り越え、竣工式を迎えられた。

参加者には、人との繋がりの重要性を改めて実感する談義となった。

【参加者】

- 真木大輔 (有)真木工業 代表取締役
- 辻井雄介 (株)富花 代表取締役
- 猿田淳子 (猿田淳子税理士事務所 所長)
- 関口陽子 (HIROME 代表)
- 金山紗希 (Ja Tee de nut 代表)



副会頭
金尾 雅行
(富山港湾運送(株) 取締役社長)

会場 「地魚地酒 うお清」
富山市新富町1-3-9

「地域のために組織力を高めよう」

日々の青年部活動に対しての意見を伺える貴重な機会に、青年部において中心的な役割を担っている参加者たちは、各々の熱き思いを金尾副会頭に次々と投げかけた。副会頭は、政策提言からイベント企画に至るまでの青年部の活発な活動内容を熱心に聞いた後、「商工会議所(親会)と青年部が別組織であるかのような意識が強く出過ぎたのがマイナスになっている部分もある。どこかで軌道修正し、商工会議所は組織として更に強くならない」と語り、



支援こそが我々の最優先業務である」と語られた。談義では、お互いの普段の思いを率直にぶつけ合うことができ、終了時刻になっても、新規事業からおすすめのお店の話まで、話題が尽きることはなかった。副会頭の温かく誠実な人柄に触れ、参加者も「親会との関係を強化し、更なる地域貢献に努めたい」と力強く応えた。

【参加者】

- 高橋 由将 (有)高橋自動車 代表取締役社長
- 五十嵐 亮 (有)富山メディアワーク 代表取締役
- 森実 智洋 (トヤマ商事(株) 取締役)
- 大平 宏則 (株)OHIRA 代表取締役
- 澤田 帝 (良久工業(株) 代表取締役)



副会長
翠田 章男
(株)トンボ飲料 代表取締役社長
富山市桜町1-3-11
Aビル2F

「緊急度が低く重要度の高い仕事を」

今回の会場が、翠田副会長が幼少期を過ごされた場所である偶然に驚きながら、経営者としての心構えなどを熱く語っていただいた。

まず、「仕事を怖がらずに人一倍頑張れば、必ずと認められ成長できる。そして仕事も面白くなり好きになる」反面、「仕事が嫌いな人は経営者をしてはいけない」ときっぱりと断言された。また、「緊急度が低いが重要度の高い仕事をするのが経営者である」とも。「緊急度の高い仕事は部下に任せ、自分は新しい仕事



や、商工会議所活動など異分野の世界を経験することで大いに成長できる。一方では部下の育成になり、会社も大きく成長する」と力説された。そのほか、自社で行っている『提案制度』については、「経営者が無視をせず最後まで関わるのが重要」と語られた。まだまだ話は尽きず二次会の場で延長戦が繰り広げられた。

【参加者】

勝原 光彦 (勝原塗装株 代表取締役専務)
大森 宏樹 (写真の大森 代表)
中川 武秀 (南八尾興業 取締役)
青木 啓明 (南青木工業所 代表取締役社長)
小山 浩二 (小山浩二建築設計事務所 代表)



常議員
中井 敏郎
(東亜薬品株) 代表取締役社長
富山市桜町2-4-12
Mビル2F

「夢を持って行動」

冒頭、高杉晋作や吉田松陰など近代史の話で盛り上がり、中井常議員は「近代史を知らない」と現代の仕事は出来ない」とし、歴史を学ぶことの重要性を説かれた。また、戦略的に行ってきた自社の設備投資の話を紹介し、「経営者は時に思い切りの良さが大事」としながらも、「夢があれば理想をもてる。理想があれば計画をもてる。計画があれば利益が発生する。故に、夢の無い人は絶対に成功しない」と熱く語られた。そして、「散歩を目的に出掛けた者は富士山には登れない。富士山に登るには相応の準備が必要」と例え、常に目標を定めて行動することが重要だと話された。



青年部メンバーに対しては「青年部に入ったからには、何かを成し遂げて欲しい。仮に失敗したとしても今後の糧になるので、失敗を恐れず積極的に活動して欲しい」とエールを送られ、談義は和やかなうちに終了した。

【参加者】

五十嵐勝彦 (菱越電機株 課長代理)
瀧脇 克之 (アスラン建築 代表)
石井 良行 (南WIZARD 代表取締役)
田村 忍 (タムラ建築 代表)
高柳 良 (お墓ドクター 代表)



常議員
須垣 純夫
(富山スガキ株) 代表取締役会長
富山市安田町3-8

「経営者に一番必要なのは『財務』」

須垣常議員は青年部の第7代会長で、参加者にとって先輩にあたる。「青年部活動がきっかけとなった家族ぐるみの付き合いは今も続いている。やんちゃだった子供たちが今は経営者として立派にやっていると目を細められた。談義では「若手経営者には財務を勉強して欲しい」と何度も口にされ、「経営はゴルフと同じ。いかに戦略を立ててスコアをあげるかで、ただ振り回せばいいというものではない。経常利益よりもキャッシュフローが大事で、全社員の生涯賃金と採用計画、設備投資と



返済計画、経費や償却費等を計算して戦略を練るのが社長の役目」と語られた。また、歴代会頭の講演は素晴らしく、「青年部時代に聞いた金井久兵衛会頭の『個と全体の調和』の話は40年経った今も覚えている。高木会頭等の良い話が聞ける機会を捉えて経営に、そして人生に役立てて欲しい」とアドバイス。酌み交わした酒とともに、参加者の心に染みわたった。

【参加者】

五十嵐健昇 (五十嵐建設株 代表取締役)
蓑輪 寿宏 (ミノワ社会保険労務士事務所 代表)
酒井 克宗 (YSP富山中央)
村家 幸伸 (むらい食品株 商品部長)
清水 英夫 (南ライフ福祉送迎サービス 専務取締役)

談義後の感想

お酒を酌み交わし、本音を引き出してくれる雰囲気居酒屋の良さ。今回の居酒屋談義に参加した若手経営者らは、ほぼ初対面の正副会頭・常議員が語る経験に基づく人生観、経営観などの話から何を感じ取ったのか。様々な感想が寄せられた。



顧客の立場に立ち仕事をする大切さを語って頂き大変有意義でした。この談義が広がれば良いと思いました。(大森)

高木会頭がお持ちになった美味しいワインを頂きながら興味深い蘊蓄を伺っていると、緊張も和らぎ、楽しい時間を過ごすことができました。(佐々木)

中井常議員の経験から話される言葉はどれをとっても心に響きました。素晴らしい時間を過ごせたことに感謝でいっぱいです。(五十嵐勝彦)



若い我々の話を金尾副会頭に熱心に聞いてもらい、アドバイスを頂きました。仕事や地域貢献に一層邁進したいです。(五十嵐亮)

日本の歴史を基盤とした人としての思い、経営者としての思いを語って頂き、大変参考になりました。(高柳)



翠田副会頭に経営の悩みを直接お話しできました。「艶」をキーワードに本質を捉える目をさらに磨いていきます。(小山)

青年部の大先輩でもある須垣常議員の経験談に感銘を受けました。しっかり胸に刻み人生を歩もうと感じました。(村家)

河上副会頭から「TOYAMA キラリ」に関する貴重なお話をうかがうことができ、富山の歴史を知るよい機会となりました。(猿田)

感想はこれらのほか、「経営者として必要なものを感じ取ることが出来た」、「経営の悩みを抱える参加者から、「経営に対するヒントをもらった」という意見もあった。限られた短い時間の居酒屋談義の中で、正副会頭・常議員からのメッセージは若手経営者らに伝わり、今後の人生の糧となるまたとない機会となったようだ。



近藤副会頭のユーモア溢れる語りと裏話で大変盛り上がり、有意義な時間を過ごすことができました。(長谷川)

「経営者は常に売上や経費に神経をはらい判断を下さなければいけない」というお話が大変参考になりました。(蓑輪)

